日本医史学雑誌　第62巻第1号（2016）　39–48

池田文書の研究（54）

著名人の書簡（経歴判明の人を含む）（その4）

池田文書研究会

［102］三枝守富（専斎）の書簡

三枝守富は大隈重信の妻綾子の兄．守富の次女知恵・三女光子は大隈重信の養女となり，光子は後に重信の孫に当たる信常（養嗣子．松浦詮の5男）の妻となる．光子は明治17年生まれ，昭和21年没.

1　明治　年2月29日　（1816）

拝啓，陳は御多忙之御中甚恐縮之到りニ御座候得共三女義来月早々大隈方へ差遣し候ニ付，其已前一寸御診察相願度，昨日大隈家内事参り右相願候様申聞候間此段奉願候，匆々頓首

二月廿九日　三枝専斎　拝

池田賢台　閣下

［103］嵯峨実愛・家扶の書簡

嵯峨実愛は明治期公家華族．嵯峨実愛と家扶の書簡は日本医史学雑誌第54巻第3号に5通掲載に付省略.

［104］酒井明の書簡

酒井明は嘉永4年尾張藩士家に生まれる．明治13–22年徳島県県令・知事を勤める．退職後銀行・会社の経営者となる．尾張徳川家の相談役を勤める．明治40年没．享年57.（1851–1907）

1　明治15年12月13日　（1706）

（端裏書別筆　酒井明　官吏）

拝啓，益御清勝奉恭賀候，陳ハ小生今般登京候ニ付テハ早速可相伺之処，毎日事故ノ為メニ束縛セラレ遂ニ御無音ニ打過候段御海恕可被下候，鄙恙も御蔭ヲ以尓来頗ル軽快ニ赴キ候間乍憚御降心可被下候，此品甚軽粗之至ニ候得共有合セニ侭（ママ）セ，御伺之印迄ニ進呈仕度，御受納被成下候ハヽ本懐之至ニ御坐候，右ハ乍略義不取敢御伺迄如此御坐候，匆々拝具

十五年十二月十三日　酒井明

池田賢台　侍史

［105］酒井忠篤・忠宝の書簡

酒井忠篤・忠宝は出羽庄内藩主．酒井忠篤・忠宝の書簡は日本医史学雑誌第55巻第3号に2通掲載に付省略.

［106］坂部長照の書簡

坂部長照は明治期の官僚．明治7年頃内務省出仕．大蔵省に転じ会計検査院部長検査官．明治18年6月1日没.

1　明治　年11月11日　（1713）

拝啓，頃日ハ別而台へ御来臨御診察被成下奉深謝候，其折御処方之通藤山軍医補配剤相用居候処，昨十日夜二回吐血，其後通利，六時半頃吐血致し候，尤脈上ハ左程ニハ衰へ不申候得共数回之吐血ニて甚疲労致居候間，尚御賢案被成下候て可然御処方被下度奉希望候，此段御願迄，匆々不尽

十一月十一日夜八時　坂部長照　再拝

池田先生　梧右

［107］坂本政均の書簡

坂本政均は天保2年高松藩士家生まれ．壮年まで赤松三郎と称す．緒方洪庵に学ぶ．維新前に坂本家を継ぎ坂本政均と改名．元老院議官・高等法務陪席裁判官．明治23年没．享年60.（1831–1890）

1　明治14年12月8日　（1720）
（封筒表）池田正五位様　願用　　坂本政均
（封筒裏）〆
　　口演
唯今少々喀血候間御来診被下度，此段奉願候也
　十四年十二月八日　　坂本政均
　池田先生　侍史

2　明治14年12月28日　（1716）
各位愈御清福被成御坐奉賀候，陳は過般来鄙恙ニ付てハ大先生並御門弟様方屡々御来診被成下忝奉謝候，依テ些少之至ニ御坐候得共別包之通り金弐拾五円並金拾円進呈仕候間御序之節可然御披露可被成下候，且別包薬価金九円八拾七銭差出申候間是又御薬室へ御支払可被成下候，右得御意度如此ニ御坐候也
　明治十四年十二月二十八日　　坂本政均
　池田正五位様　御執事中様　貴下

3　明治16年7月15日　（1719）
（封筒表）池田謙斎様　侍史　　坂本政均
（封筒裏）封
益御多福被為渡奉拝賀候，陳は長女儀早春来御丹精ヲ以御救治被成下難有仕合奉存候，依て左ニ
一，白縮緬　壱疋[1]
一，御診察料　三万疋
　外ニ　薬価　廿九円六拾銭
乍些少拝呈仕候，次ニ
一，白縮緬　壱疋
一，御代診料　七拾五円
　右小原静君え
一，金　三円
　右御薬局え
拝呈仕候，御入掌可被成下候，余は参館万々，謹言
　十六年七月十五日　　坂本政均
　池田謙斎様　侍史

（1）1疋は布帛2反.

4　明治16年12月28日　（1718）
（封筒表）池田謙斎様　侍史中　坂本政均
（封筒裏）（封　政均印）
謹啓仕候，向寒之処益御清適被成御坐奉敬賀候，陳は小生始家族共儀毎々御丹精被成下忝奉謝候，従て
一，金壱万四千匹[1]　御診察料
一，金五拾六円廿八銭　御薬価
一，八丈縞　壱段
一，金一万匹　御代診料　小原君え
一，八丈地　壱段　御同人え
一，金壱円　御代診料　松野君え
一，金三円　御薬局諸君え
右乍些少進呈仕度御受納可被成下候，孰れ拝趨之上万御礼可申述候得共先ツ不取敢如此御坐候，頓首
　十六年一二月廿八日　　坂本政均
　池田謙斎様　侍史中

（1）400匹は1両＝1円．依って1万4000匹は35円となる．

5　明治17年9月30日　（1721）
益御多祥被為渡奉賀候，陳は荊妻儀過日来風疾之気味にて相悩罷在候処，患部頚悩（ママ）ニ掛ケ痛ミ候故夜分も兎角寝兼候程之容体，就てハ恐入候得共今日御来診之上可然御処剤可被成下候，右奉願度，頓首
　十七年九月卅日　　坂本政均
　池田謙斎様　侍史

6　明治18年10月15日　（1715）
益御多祥被為在奉賀候，陳は今般諸裁判官持病有之候者は医師診断書相添其筋へ届出候規則ニ相成候，就ては毎度御手数之段恐入奉存候得共，右御診断書一葉拝受仕度，此段奉願候，頓首
　十八年十月十五日　　坂本政均
　池田老先生　御侍史

7　明治　年12月23日　（1717）
一書拝呈，新寒相募候処益御多祥被為渡奉賀候，

尓来は意外之御疎濶御用捨可被下候，陳は此品粗末之至ニ御坐候得共態と歳末之御祝詞迄ニ拝呈御笑収可被成下候，書外拝光，不尽

十二月廿三日　坂本政均　再拝

池田謙斎様　御侍史

［108］相良剛造の書簡

相良剛造は大隈重信の姉妙子の子供．即ち大隈重信の甥に当る．東京株式取引所理事を勤める．明治33年5月9日没．

1　明治　年3月18日　（704）

如仰余寒不退候処，貴家にも御一同御清適御座候由大慶奉存候，陳ハ結婚願の義に付てハ種々煩御手数候，従尊命同意書二通に調印仕差上候，よろしく御取計被下度，乍恐奉願候，謹言

三月十八日　相良剛造

池田謙斎様

追伸，其後ハ御無沙汰罷在候御隠居様御奥様へよろしく御伝願上申候

［109］作間一介（さくまいちすけ）の書簡

作間一介は明治期の官僚．一介は弘化3年長州生まれ．内閣大書記官を勤める．明治17年9月19日没．享年39．（1846–1884）

1　明治　年8月31日　（1724）

昨夜ハ御枉駕難有奉拝謝候，其後容体格別相変候儀も無之只両脚重ク困入申候，小水之瓶尊命ニ従ひ差出申候，御検査奉願候，尚又此後御通行之御序も御坐候節御診察奉願候，頓首

八月卅一日　作間一介

池田様　侍史

瓶ヲ能ク洗ひ候様ニ申付置候処，小水ヲ入レ跡ニて見候へハ少々汚レ有之申候，此段御断申上候

2　明治　年6月15日　（1725）

過刻は御無理之義願上候，何分病人容体気遣敷候間何共願上兼候得共御来診被下間敷哉，夜中之義尚更御苦労恐縮之至ニ御坐候得共願上試候，為其草々頓首

六月十五日　作間一介

池田様　侍史

3　明治　年8月28日　（1726）

先日ハ御枉駕難有奉万謝候，さて尓来御蔭ヲ以テ追々快キ方ニ相成候得共，此節ニ至り又々面部手足等ニ腫気ヲ発シ申候，何卒方角御通行之御序モ御坐候ハヽ御診察奉願候，乍略儀郵書ヲ以テ奉願候，頓首

八月廿八日　作間一介

池田様

4　明治　年8月19日　（1727）

（封筒表）池田謙斎様　作間一介

（封筒裏）〆

（端書）　池田様　作間一介

残暑兎角去リ兼候処，愈御清適被為渉奉恭賀候，先日ハ御光来千万難有其砌ハ病人共御厄害（ママ）相願段々感佩仕候，御蔭ニて荊妻も追々快ク相成候，少子も追日向快，明日外出之積ニ御坐候，誠ニ御無沙汰ノミ申上奉恐入候，さて御用多之御中願兼候得共親戚之内ニて兼常定誠ト申もの久敷脳ヲ痛ミ是まて色々療養仕候へとも兎角全治セス困却仕居申候，付てハ御診察相願度旨御坐候ニ付罷出候ハヽ何卒御診断被下候様小子も相願申候，先ハ右御願ノミ，草々拝呈書外拝趨万可奉謝候，頓首

八月十九日

兼常ハ西ノ久保ニ罷居候ものニ御坐候間，御診察相願候上ハ何卒御処剤書御恵投被下候様相願申候

5　明治　年1月4日　（1728）

（端書）　池田謙斎様　作間一介

益御安康被為渉奉敬賀候，旧冬来誠ニ御無沙汰斗申上奉恐入候，さてハ小児事旧冬己来所詮不相勝咳嗽痰等甚布，原氏へ相頼置申候，此度ハ全ク風邪之よしニ御坐候へ共何分掛念仕候，一昨日原氏来診今一度尊公様へ御見舞相願度，尤御不快被為入候よしニ付書状なり共差上ケ可申ト噂サ有之申候，昨夜来ハ発熱もイタシ別て相勝不申候，然処

今朝木戸ニて承り候へハ今日山田へ御出被為成候よし何卒御序ニ甚申上兼候へ共一寸御枉駕御診察被下間布ヤ，伏て奉懇願候，罷出折角可相願ト奉存候折柄方角御来駕之趣承り候ニ付，乍略儀如此御坐候，よろ布御領承奉願候，頓首

一月四日朝　木戸ニて認ム

6　明治　年2月25日　（1729）

過日ハ御繁務之御中御枉駕被下千万難有奉拝謝候，愚妻其後之容体先同様ニ罷在候，自然御繰合せ被為叶候ハヽ何卒近日之内御枉顧奉願度甚御無理之義ニ御坐候へ共御領承被下候ハヽ難有仕合ニ奉存候，頓首

二月廿五日　作間一介

池田様　御坐下

7　明治　年5月22日　（1730）

（封筒表）駿河台北甲賀丁　池田一等侍医殿

湯浅勝全氏ニ託ス

（封筒裏）〆　市ケ谷佐土原町三百十六番

作間一介

拝啓，薄暑之候益御安康被為渉奉恭賀候，さては毎々御厄害（ママ）之至ニ御坐候得共，同県士族湯浅勝全ト申もの日向在勤之節より胃病相煩ひ，此度幸ニ出京当地在勤之事ニ相成候，就ては一層療養為相加度，実は私縁類之ものニ付一入不堪心配御診察相願申度，今朝本人差出申候間何卒御診奉願候，為其如此御坐候，頓首

五月廿二日　作間一介　拝

池田先生　侍史

［110］桜井勉（つとむ）の書簡

桜井勉は明治期の官僚．天保14年9月13日兵庫出石藩儒官家に生まれる．内務省地理局長在任中全国に気象観測所の創設に尽力．徳島・山梨県知事・内務省神社局長歴任．昭和6年10月12日没．享年89．（1843–1931）

1　明治　年5月31日　（1731）

（封筒表）東京神田区駿河台　池田謙斎殿　平安

北海道日高国浦川駅　桜井勉

（封筒裏）（切手二銭二枚）

（内封筒表）池田謙斎殿　親展

（内封筒裏）〆　桜井

出立前は段々煩尊配難有奉存候，以御蔭途中大丈ぶニて旅行罷在候，御安心可被下候，唯々日々非雨則霧殆ト夜中之歩行ニ同しきのミならず経過スル処は海岸而已（ノミ）ニて走馬灯と一般ニ御坐候，扨北海道も漁猟アル処は和人土人之雑居もあり魚屋板倉等も有之候へ共其他はヒラケサル事甚敷して其一二ヲ申候へハ苫小牧（トマコマイ）駅にては鶏肉も魚も無之佐流太（ルフト）駅にては酢（ス）も無之候ヒキ，是にて他は御忖度可被下候，然シ生椎茸独活は至ル所ニ有之候故二品のミヲ食し居候，初之考ニは北海道ニ至候へハ酒はのめざるのミならず買ふ事ニも差支ルナルベしと存ぜしも，酒は奥州辺之比ニ無之（羽後越後之酒多し）意外ニよろしく候，之ニ引かへ魚と鹿肉ニは飽く事なるべしと存せしニ，此二者之払底は実ニ甚しき事ニ有之候，扨々世事はいつも意外なる者ニ御坐候，是はさて置小原氏之細君は能く居馴候哉，夫婦さし向は余り心ヤス丶ギテ互ニキマ丶ヲ言易キ者ニ有之候（勉亦覚へ有之候），何卒可然御教訓幾久敷和睦候様御取計相願候，留守不相渝煩尊配候事と奉存候，何分よろしく相願候，出立以来今日こそは御礼書差上可申と乍存遂ニ今日迄遷延いたし申候，御海恕可被下候，長文は却て煩尊覧候故先擱筆于此候，辰下寒暄未定為国家祷御自重候也

五月卅一日　勉

池田先生　侍坐弟子

［111］佐々木高行・高美（たかよし）の書簡

佐々木高行・高美は明治期の政治家．本書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に4通，日本医史学雑誌第57巻第1号に1通掲載に付省略．

［112］佐々木和三郎の書簡

佐々木和三郎は明治期の官僚．山口県士族家に生まれる．工部鉱山局勤務．明治11年5月13日没．

1　明治　年4月1日　（1749）
益御佳適被為渡奉大賀候，陳ハ兼て仰之如ク暫時旅行候ニ付テハ目下出願致度候間何共恐入候得共診断書御認御投与被成下度，右ハ拝趨可相願之処乍略義以愚札此段奉願候，尤出立前ハ拝趨万々可相伺候得共不取敢願事此事ニ御坐候，早々頓首
　四月一日　佐々木和三郎
　池田大先生　閣下

2　明治　年4月11日　（1743）
益御清涼ト奉大賀候，陳小生も御配慮ニ付無恙七日当地へ着，当日ハ殊之外寒気烈ク其後引続キ今日ニ到迄晴天と申事ハ無之曇天或ハ雨実ニ欝々当地ノ人も如斯ハ誠ニ少キ例と申居候也，尤時候ハ余程暖和ニ御座候，旅行之節風ニ逢ヒ候訳カ当家へ着ノ夜其次日当リハ甚シク喉咽（ママ）ニ痛ヲ生シ飲食不成甚タ困却，尤当日当リハ痛ハ初メノ如ク烈敷ハ無之候へ共飲食ニ困り，朝ハ鶏卵ノ半熟或ハ粥ヲ啜り候仕合，且咳頻ニ生シ随て痛ヲ益シ吐痰ヲ成ス事日夜無別一日ニ大凡ウガイ茶碗ニ半分位稀ニ痰中ニ血点ヲ見申候，脈ハ大凡八拾度前後，通シハ大抵毎朝少々宛ツヽ一度，熱ツハ別ニ無之様覚申候，食事ハ痛ノ訳も有之哉余り不進，夫レニ不自由ノ場所故乎，牛乳等ノ如キ者一切無之，只鶏，卵魚類已也，身体余程衰微致し天気ハ悪シ運動不出来，実ニ困却仕候，此ノ都合ニテハ身体ノ快復モ不成容易と至極掛念仕候，先ハ着後ノ容体申上候也，何卒宜しく御推覧之程偏ニ御願上候也，謹言拝具
　四月十一日　佐々木和三郎
　池田様
　尚々甚タ自由か間敷候へ共，若シ御薬り変り候事も有之候へハ使ニ御命シ願上候

［113］佐野常民の書簡

佐野常民の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に27通，日本医史学雑誌第57巻第1号に7通掲載に付省略.

［114］鮫島尚信（さめじまひさのぶ）の書簡

鮫島尚信は明治期外交官．弘化2年薩摩藩士家に生まれる．幕末英国・米国留学．明治元年帰国．明治3年外務大丞．8年外務大輔．11年駐仏特命全権公使になるも13年在職中客死．享年36.（1845–1880）

1　明治　年2月7日　（1814）
前略御免，然は明八日午後三時より四時半之間家君在宿之節可成御繰合前刻御光来被下度御報可致被申入候侭此段仰上被下度勿々馳禿筆候，敬具
　二月七日　鮫島尚信　執事
　池田従五位[1]殿
　　執事御中

（1）謙斎は明治9年12月より明治12年12月まで従五位.

［115］澤簡徳の書簡

澤簡徳は天保元年江戸に生まれる．幕末外国奉行，明治初期司法判事．明治11年神田区長．36年10月12日没．享年74.（1830–1903）

1　明治　年10月25日　（1815）
拝啓，陳ハ過般御配意相成候臨時官医猿渡・丸ノ両氏一昨十（ママ）三日付右委嘱ヲ被解，為慰労金参拾弐円宛ヲ贈貽スル旨東京市参事会ヨリノ辞令書本日到達ニ付両氏へハ即刻伝達ニおよひ候条此段為御承知御通知仕置候，頓首
　十月廿五日　澤簡徳
　池田謙斎殿

［116］三條実美（さねとみ）・公恭（きみあや）執事・家扶（福井英晴・富田藤古）の書簡

三條実美は明治期の公家政治家．公恭は実美の養嗣子．三條実美・公恭執事・家扶の書簡は日本医史学雑誌第54巻第3号に14通掲載に付省略.

［117］三宮義胤の書簡

三宮義胤は明治期の官僚．三宮義胤の書簡は日本医史学雑誌第57巻第1号に4通掲載に付省略.

［118］品川弥二郎の書簡

品川弥二郎は幕末・明治期の政治家．弥二郎の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に27通，日本医史学雑誌第57巻第1号に5通掲載に付省略．

［119］島地默雷の書簡

島地默雷は明治期の浄土真宗本願寺派の僧侶．天保9年長州専照寺に生まれる．明治初期廃仏毀釈の風潮に抗し仏教刷新に，又社会活動に尽力した．明治44年2月3日没．享年74．（1838–1911）

1　明治14年9月19日　（1837）
（封筒表）駿河台　池田謙斎様
（封筒裏）一番丁四十二番地　島地默雷
（消印　東京　一四年九月一九日）（切手　一銭）
拝啓，御多祥奉南山候，然ハ小生清蓐之小筵ニ擬シ来廿三日麁酒進呈致度候間何卒午後四時より弊庵ニ御賁臨被下候様奉願候也
尚々，自然御差支御坐候ハヽ乍御手数奉願御一報候
九月十九日　島地默雷
池田謙斎様

2　明治　年3月8日　（1836）
拝啓，今日ハ御賁臨難有奉謝候，然て小生友人築地本願寺寺務所長在勤罷在候長谷川楚教之妻先日已来臥褥罷在，所詮果々敷無之南部診察仕居候処此間，先生へ御診察相願度冀望罷在候旨小生へ伝頼申来候間何卒御繁務之際恐入候へとも御診察被下候ハヽ多幸之至ニ奉存候，今日承候へハ吐血致候哉ニて甚痛辛仕候間何分宜布奉冀候，同人ハ築地本願寺内ニ寄寓罷在候間此段御倚頼仕候也
三月八日　默雷　拝
池田先生

［120］杉孫七郎の書簡

杉孫七郎は明治・大正期の政治家．孫七郎の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に11通，日本医史学雑誌第57巻第1号に1通掲載に付省略．

［121］周布公平の書簡

周布公平は明治期の藩閥政治家．公平の書簡は日本医史学雑誌第57巻第1・3号に24通掲載に付省略．

［122］関信之助の書簡

関信之助は弁護士・茨城県県会議員．

1　明治37年2月14日　（3558）
（壱円印紙二枚に関・松井の消印あり）
建物売渡證
東京市麹町区八重洲町弐丁目壱番地所在
一，煉化建瓦葺三階造倉庫　壱棟
此坪数（三階ヲ平坪ニ直シ）百九拾弐坪
造作付有形ノ侭
右今回熟談ノ上取毀ノ契約ヲ以テ代金四千円ニテ貴殿へ売渡候処確実也，然ル上ハ本年三月四日迄ニ取毀ニ着手シ仝年五月十五日迄ニ取毀，悉皆御取払可相成候，若シ万一期日内ニ取払ヲ為サヾル場合ハ其責任ハ貴殿ニ帰シ売渡人ハ其責ニ任セザルモノトス，依ツテ売渡証如件
明治三十七年二月十四日
水戸市上市裡五軒町十六番地
売渡人　関信之介　印
東京市神田区猿楽町弐番地
保証人　松井貫七　印
仝市日本橋区通リ四丁目八番地
保証人　仁谷定吉　印
明日調印
池田謙斎殿

［123］千家尊福（せんげたかとみ）の書簡

千家尊福は出雲大社宮司・政治家．尊福の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に1通掲載に付省略．

［124］相馬家家令の書簡

相馬家は陸奥中村藩主家．家令の書簡は日本医史学雑誌第55巻第3号に1通掲載に付省略．

［125］曽我祐準（そがすけのり）の書簡

曽我祐準は明治・大正期の軍人・政治家．祐準の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に1通掲載に付省略．

［126］曽根静夫の書簡

曽根静夫は弘化2年生まれ．大蔵省国債局長・北海道拓殖銀行初代頭取歴任．明治36年没．享年59．（1845–1903）

1　明治　年　月5日　（1081）

奉呈，昨日は昇堂拝謁ヲ辱フスルノミナラス親シク御教示ヲ蒙，拝謝ノ至ニ不堪，帰宅早々親類相談之上一応御垂示ニ随，佐藤先生ノ診察ヲ受クルニ決シ同氏ノ御来診ヲ乞候処，本日午後三時往診可致旨御承諾相成候間，此段御承知被相乞度，尤以後は御治療向ノ義ハ昨日申上候通ドコ迄も国手ニ御願申上度義ニ付，佐藤先生御一診ノ上は同君へ御示談ノ上尚無御見捨御取扱被成下候様平ニ奉懇願候，此義拝趨ノ上御願可申上筈ノ処，却テ御繁忙ヲ妨ケ可申ト存，不顧失礼呈一翰候，頓首拝

五日　曽根静夫

池田国手　御左右

［127］園基祥（そのもとさち）・家扶の書簡

園基祥は公家華族．基祥・家扶の書簡は日本医史学雑誌第54巻第3号に3通掲載に付省略．

［128］鷹司熙通（たかつかさひろみち）・奥・家扶の書簡

鷹司熙通は公家華族．鷹司熙通・奥・家扶の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に4通掲載に付省略．

［129］高崎正風の書簡

高崎正風は明治期の官僚・歌人．正風の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に4通通掲載に付省略．

［130］高辻修長（おさなが）の書簡

高辻修長は公家華族．修長の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に2通掲載に付省略．

［131］高橋良尚の書簡

高橋良尚は宮内省4等事務官．

1　明治31年　月　日　（1864）

（封筒表）池田男爵殿　閣下　御家扶御中

養子及旅行願雛形入

（封筒裏）〆　高橋良尚　拝　（宮内省　印）

（謙斎筆にて書式控と書き込みあり）

用紙美の二葉

養子願

男爵　池田謙斎　三男[1]

池田某　何年何月生

右今般何之某東京市本所区菊川町一丁目□番地士族薪炭卸商鈴木亮三え何縣国郡何番地　華族・士族・平民　当時何縣寄留職業官位勲何某養嗣子ニ遣し度親族連署ヲ以テ此段奉願候也

明治　年月日　男爵　池田　一一　印

親属　何某　印

宮内大臣宛

旅行御届

私義来ル何月何日出立，新潟県下新潟市え何週間程旅行仕候間，此段御届申上候也

明治何年何月　爵姓名

宮内大臣宛か（爵位局長宛か）

宮内大臣・爵位局長　御届各別御帰京の節同様

（1）謙斎の3男池田謙三．明治16年生．明治31年7月5日鈴木亮蔵の養嗣子となり鈴木謙三と名乗る．昭和38年没．（1883–1963）

［132］高嶺秀夫の書簡

高嶺秀夫は安政元年生まれ．東京師範・女子高等師範学校校長歴任．師範教育の功労者．明治43年没．享年57．（1854–1910）

1　明治　年7月3日　（1865）

（封筒表）池田謙斎殿

（封筒裏）〆　高嶺秀夫

本月十日当校ニ於テ卒業証書授与式執行候ニ付，同日午前第八時御臨席被下度此段及御案内候也

七月三日　　高嶺秀夫
池田謙斎殿
追テ御臨席之有無来ル七日迄ニ御一報被下度候
以上

［133］田尻稲次郎の書簡

田尻稲次郎は明治期の大蔵官僚．稲次郎の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に1通掲載に付省略．

［134］伊達宗城（むねなり）の書簡

伊達宗城は伊予宇和島藩主．宗城の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に2通掲載に付省略．

［135］建野郷三の書簡

建野郷三は天保12年豊前小倉生まれ．渡邊家・牧野家を経て建野家養子となる．宮内省御用掛・大阪府知事・神戸市商業会議所会頭．明治41年没．享年68．（1841–1908）

1　明治（14）年3月30日　　（1988）
逐日春暖之候愈御清祥奉杳賀候，陳ハ当府立医学校副長橘良詮義兼て御承知之通今般無余儀事情ニて辞表差出候処，該校ニ於て同人ニ亜クヘキ人物更ニ無之忽チ同校之盛衰ニも関シ候程ニて，当節改良之折柄誠ニ苦心致候ニ付何卒同人同様学科熟達之者壱名御鑑撰，至急御差向被下候義ハ相叶申間敷哉，此段別て御依頼申上候，何分御一報被下度候也
三月卅日　　建埜郷三
池田先生　梧右
追て本文之義人物御見立被下候ハヽ又本人之望ミも可有之ニ付，給料等之処も概略御見込御示教　被（衍字）被下度候也

2　明治15年5月15日　　（2676）
拝啓，益御清適奉賀侯，陳は当府医学校モ追々生徒増加，自今ニ至テハ二百有余名モ有之候処，当時在勤之教員壱名他ニ転任之都合ニ相成，就ては後任ヲ要候間甚タ御手数之至候得共，卒業医学士壱名至急御周旋被成降度此段御依頼申上候，尤モ月俸は百円位支給可致候，先は右御依頼迄，草略不具
十五年五月十五日　　建野郷三　印
池田謙斎様

3　明治15年5月24日　　（1987）
御答拝見，陳は御依頼申上候医学士之月俸は百二十円迄支給可仕候，且又当人え為受持候学科之義吉田え問合候処，内外科病理学之内一科或ハ二科之講義ニ従事為致候見込ニ候得共，学期之都合ニ寄テハ産科眼科等之講義モ為受持候見込ニ申出候，右之次第ニ御座候間何分宜敷御周旋之程奉願上候也
五月廿四日　　建野郷三　印

［136］田中不二麿の書簡

田中不二麿は明治初期の教育行政家・政治家．不二麿の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に6通，日本医史学雑誌第57巻第3号に3通掲載に付省略．

［137］田中光顕の書簡

田中光顕は幕末・明治期の軍人・政治家．光顕の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に2通，日本医史学雑誌第57巻第3号に2通掲載に付省略．

［138］田中芳男の書簡

田中芳男は幕末・明治期の博物学者・農務官僚．芳男の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に2通掲載に付省略．

［139］田辺新七郎の書簡

田辺新七郎は宮内省侍医局事務官．

1　明治（20）年2月25日　　（2005）
萩原三圭[1]義は元来内務省非職御用掛ニ付同省へ照会之上当省へ御採用可相成之処，差掛リ候義ニ付其義無之任用相成候処，此節内務省より同人非職ハ止メニ相成リ宮内省之方専務ナルヤ又非職

御用掛ニて宮内省は兼務之積リナルヤ，両様之内決答致呉候様申来候，就ては如何返答可仕哉，内務非職は旧来之侭にても俸給は両省より給与之訳ニ無之有名無実之事ニ御坐候，右御勘考之上早急御回答被下度候也

二月二十五日　田辺新七郎

侍医局長官[2]殿

前文之義両三日前ニ内務より申来候処，小生義此内多忙ニて貴官へ御問合致延引，昨日久宮[3]御殿へ属官差出候処，御詰合無之ニ付以書中申上候事ニ御坐候，宮内省専務ニて可然事ニ候ハヽ其都合ニ相運ヒ可申候也

（1）萩原三圭は明治20年1月22日侍医局勤務となり，翌21年侍医となる．
（2）池田謙齋が侍医局長官となったのは明治19年2月5日より22年7月22日迄．
（3）久宮　明治天皇第5皇女　静子内親王．明治19年2月10日生．明治20年4月4日没．

2　明治22年3月14日　（2006）

岡[1]侍医洋行ニ付右代リ原田[2]侍医明宮拝診被仰付候旨御沙汰相成候，就ては常宮[3]拝診は萩原・伊藤之両侍医ニ相成候，此段及御通達候間本人へ御達相成度候也

三月十四日　田辺新七郎

侍医局長官殿

岡氏願も伺済ニ相成候，又賜金も御申立通リニ相成候，此段乍序申進候也

（1）岡　岡玄卿．嘉永5年生石州津和野藩士家生まれ．明治22年侍医在官のまゝドイツへ私費留学する．
（2）原田　原田豊．明治19年より27年迄侍医．
（3）常宮　明治天皇第6皇女，昌子内親王．明治21年9月30日生．竹田宮恒久王妃．

3　明治　年4月10日　（2004）

（封筒表）　池田侍医局長官殿　親展

（封筒裏）緘　本省　田辺新七郎

原田侍医之義ニ付別帋之通申来候，右は御差支無之候哉，何分之御答伺度候也

四月十日　田辺新七郎

池田侍医局長官殿

4　明治　年3月9日　（3223）

過刻之御書付は早速大臣閣下へ差出候処，御申出之通可相運旨申聞候間，夫々御手順ニ取扱可申心得ニ存候，此段内密申置候，又別紙履歴之者は医員へ御採用之義御内談仕候様大臣ニ申聞候間，御差罷出候処，御退出後ニ付先以差上置候，書余期拝姿候，早々頓首

三月九日　新七郎

池田先生　侍史

［140］千種有任（ちぐさありとう）の書簡

千種有任は公家華族．有任の書簡は日本医史学雑誌第54巻第4号に2通掲載に付省略．

［141］長三州の書簡

長三洲は長茨（ちょうひかる）とも云う．天保4年豊後日田に生まれる．儒者・書家．木戸孝允に認められ，文部大丞・文部省学務局長兼侍書・東宮侍書歴任．明治28年没．享年63．（1833–1895）

1　明治　年3月9日　（3230）

尓来久布不奉声咳益御清祥可被成御起居奉恭賀候，さて老母事数日前より臥病腸部ニ患処有之，微熱をも発候故原桂仙氏之治を乞居候処，今日桂仙氏より先生之御診察を乞度申出候，就てハ遠方奉懸御苦労候得共，何卒今明日中弊屋へ御来診被下度奉願候，桂仙氏も呉々御願申上候，右奉願如此草々頓首

三月九日　長茨

池田謙斎先生

［142］津軽家家扶・津軽純夫の書簡

津軽家は陸奥黒石藩主家．津軽純夫は津軽家の次男．本書簡は日本医史学雑誌第55巻第3号に2通掲載に付省略．

［143］辻新次の書簡

辻新次は明治期の教育行政官．新次の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に6通掲載に付省略.

［144］堤正誼（つつみまさよし）の書簡

堤正誼は侍従・宮内省次官を勤める．正誼の書簡は日本医史学雑誌第57巻第3号に5通掲載に付省略.

［145］時任為基（ときとうためもと）の書簡

時任為基は明治期の内務官僚．天保13年薩摩に生まれる．明治22–25年静岡県知事を勤める．明治38年9月1日没．享年64.（1842–1905）

1　明治　年12月29日　　（2098）
（封筒表）池田謙斎殿
（封筒裏）封　静岡県知事　時任為基
拝啓，時下寒冷相増候処先以テ益々御清祥奉拝賀候，陳は当県典獄川村矯一郎義，此程大患ニ罹り候処腸チフス症ナルカ将タ肺炎ナルカ完全ナル症候ヲ備ヘサルヲ以テ当地両三名之医学士モ見別シ難キ趣ニ有之，右之次第故甚苦慮仕候ニ付歳末御多忙之際恐縮之至ニハ奉存候へ共，一応御来診ヲ煩シ度委細金原明善[1]ヨリ御聞取被下，是非トモ御差繰御出張被下度此段御依頼申上候，匆々拝具
十二月廿九日　　時任為基
池田謙斎殿

（1）金原明善　明治期の社会事業家．天保3年遠江に生まれる．静岡で養蚕・植林・牧畜・治水に尽力．大正12年没．享年92（1832–1923）

［146］徳川家達（いえさと）の書簡

徳川家達は徳川慶喜謹慎後徳川宗家を継ぐ．家達の書簡は日本医史学雑誌第55巻第3号に5通掲載に付省略

［147］徳川（慶勝（よしかつ）・義禮（よしあきら））家家扶の書簡

尾張名古屋藩主家．本書簡は日本医史学雑誌第55巻第3号に11通掲載に付省略.

［148］徳川慶久（よしひさ）の書簡

徳川慶久は徳川慶喜の長男．慶久の書簡は日本医史学雑誌第55巻第3号に1通掲載に付省略.

［149］徳大寺実則（さねつね）・家扶・家従の書簡

徳大寺実則は公家華族．内大臣・侍従長を勤める．実則の書簡は『東大医学部初代綜理池田謙齋』下巻に19通，日本医史学雑誌第54巻第4号に5通掲載に付省略.

［150］戸田氏共（うじたか）・家扶の書簡

戸田氏共は美濃大垣藩主．宮内省式部長官を勤める．氏共の書簡は日本医史学雑誌第55巻第3号に2通掲載に付省略.

［主要参考文献］

朝日新聞社編『朝日日本歴史人物事典』朝日新聞社　1994年11月30日発行
池田文書研究会編『東大医学部初代綜理池田謙斎』上・下巻思文閣出版　2007年2月25日発行
日本歴史学会編『明治維新人名辞典』吉川弘文館　1981年9月10日発行
大植四郎編『明治過去帳』東京美術　1971年11月20日発行
稲村徹元・井門寛・丸山信編『大正過去帳』東京美術　1973年5月15日発行
日本医史学雑誌第54巻第3号　2008年9月発行
日本医史学雑誌第54巻第4号　2008年12月発行
日本医史学雑誌第55巻第3号　2009年9月発行
日本医史学雑誌第57巻第1号　2011年3月発行
日本医史学雑誌第57巻第3号　2011年9月発行